

楽しく日本語を学習するために ～日本語の教え方イロハ～

(一財)海外産業人材育成協会 澤田幸子

1. 初級レベルの学習者はどのように日本語を学んでいくのか

— 「文型」で学ぶ初級日本語

1) 「文型」って何?—初級日本語教育での「文型」の捉え方

考えよう 何と言う?

- ・他の人を何かに誘うとき
- ・他の人に何かお願い(依頼)するとき
- ・経験があるかどうか聞くとき

2) 「文型」の‘形’と‘意味’

考えよう 次の文をパターン化してみてください。また、その意味は何でしょうか。

- ・机の上に本があります。

..... 意味 ()

- ・たばこを吸わないでください。

..... 意味 ()

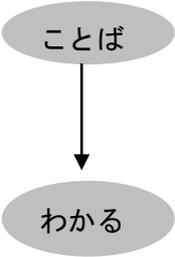
- ・タイ語を話すことができます。

..... 意味 ()

- ・文型は「形(パターン)」と「意味」の2つの面から捉える。
- ・文型は、文を作り出すためのパターン。文の骨の部分(変わらないところ)。変わるところにいろいろなことばを入れ替えることによって、文を作ることができる。
- ・動詞活用形を使った動詞文型は活用形のあとにいろいろな「句」がくっつく。

2. 初級テキストを使う

1) 基本的な進め方



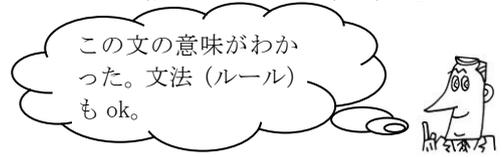
新しいことば(学習する課に出てくることば)の意味と発音

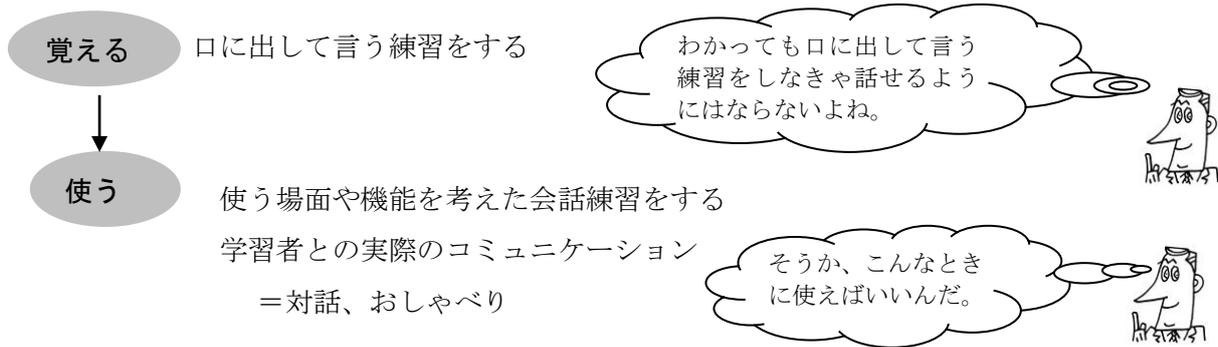
- ・「翻訳」「絵教材」などで意味を示す。
- ・ボランティアが発音を示し、学習者がリピート

➤資料①「みんな翻訳冊」

文型の形と意味を示す

- ・学習者が分かる言葉で、また、言葉以外の方法(絵やジェスチャー)も使って意味を伝える。
- ・文のパターンを視覚的に示す。



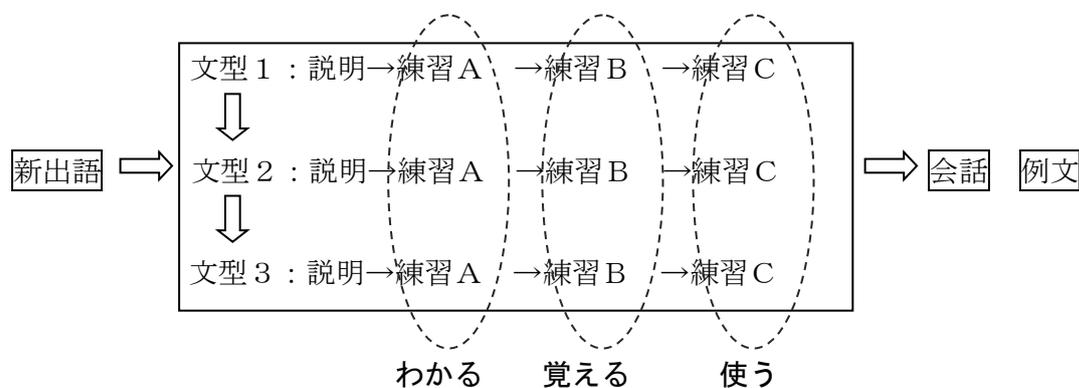


1) テキストに沿った活動の進め方——「みんなの日本語初級 I 第 2 版」6 課を例に

●「みんなの日本語初級」を使う時の手順

➤資料②「みんな日 6 課」

各課の文法項目は原則として一つの項目ごとに「練習 A → 練習 B → 練習 C」という順で学習し、全項目が終わってから「会話」をする。



例：6 課の学習項目

学習項目	文型	例文	練習 A	練習 B	練習 C
1. ～を～ます	1	1・2・3	1 →	1・2・3 →	1
何をしますか		4	2 →	4 →	
3. (場所) で～ます	2	5	3 →	5・6 →	2
4. ～ませんか	3	6	4 →	7	
5. ～ましょう	4	7	5		3

※巻末「学習項目一覧」に「文型・例文・練習 A・B・C」の対応表あり

●留意点

- ・基本的に「練習」(ドリル) は書いたり読んだりするのではなく、口頭で。
- ・学習者のペースに合わせる。
- ・「練習文」に学習者の知っていることや、生活に必要なだと思う言葉も取り入れて楽しく練習する。

2) テキストを活用して楽しく学ぶ

「テキストを教える」のではなく「テキストで教える」

活用法① 学習者に合わせた練習に変えてみましょう。

【1課】練習B

5. 例：あの方はどなたですか。・・・グプタさんです。IMCの社員です。

例 グプタ  IMC 社員	1) イー  AKC 研究者	2) ワン  神戸病院 医者	3) カリナ  富士大学 学生	4) サントス  ブラジルエアー 社員
--	--	--	--	---



【16課】練習B

5. 例：雪・多い→北海道は雪が多いです。

- 1) 人・少ない →
- 2) 冬・長い →
- 3) 食べ物・おいしい →
- 4) 雪まつり・有名 →



【38課】

7. 例：初めて会いました・いつ
→ 初めて会ったのはいつですか。
……3年まえです。

- 1) 初めてのデートで食べました・何
→
- 2) 初めて「好きだ」と言われました・どこ
→
- 3) 誕生日にもらいました・何
→
- 4) 結婚式をしました・どこ
→



活用法② 学習者とおしゃべりする

次の「例文」からどんなおしゃべりができますか。

・子どももお金を払わなければなりませんか。

…いいえ、払わなくてもいいです。

(17課)

- ・サントスさんはどこで服や靴を買いますか。
…夏休みやお正月に国へ帰ったとき、買います。日本のは小さいですから。(23 課)
- ・日記を続けていますか。
…いいえ、3日でやめてしまいました。始めるのは簡単ですが、続けるのは難しいですね。(38 課)
- ・健康のために何かしていますか。
…いいえ。でも、来週から毎朝、走ろうと思っています。(42 課)

3) 地域日本語教室で初級テキストを使うときの留意点

①文法（文型）の扱い方

「さーっと」と「じっくり」

学習の優先順位・扱い方の軽重を考えよう→今、全部教えようと思わない

★大切なことは

「生活者としての外国人に必要な日本語・その学習者に役に立つ日本語」という視点に立って考える。「テキストの通りにやればいい」のではない。

②「～できる」につながる文法

- ・「文法」を教えるのではない
- ・学習者に「これが言えるようになった」と達成感を持ってもらうことが大切

③先へ進んで、繰り返す

「レンガ積み上げ型」より「食べ切り串団子型」

④おしゃべり（対話）も大切に

文法の学習・練習をしながら、おしゃべり活動も取り入れよう。



ボランティアの活動は型どおりにはいきません。
基本的なことがわかっているら大丈夫。自分でいろいろやってみたり、ほかのボランティアに聞いたりして、「教える」より「学習者と一緒に学ぶ」気持ちで、楽しくやりましょう！



ぼちぼちやりましょ 日本語ボランティア

地域日本語教室は

あ…あかるい い…いいかげん う…うれしい え…えがお お…おもしろい